



# 園長便り



2019年8月30日発行  
セブンスデーアドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

## 創造性

毎日、暑い日々が続いていますが、お元気でお過ごしでしょうか？

今月は教育エッセー集からの文書をお読みください。

「誕生から10歳ころまでは創造性の黄金時代であると言われています。子どもは経験が乏しく、知識も浅く、常識も少ないですが、鋭い直観力と、えも言われぬ想像力を持ち、子どもなりの思考力を備えています。私は幼い子どもたちの自由な発想と表現に驚きを感じます。まさしく子どもたちは創造的なのです。

いつかひとりの子どもが、『お月さまのうち』と言って描いた絵を忘れることができません。一軒のお月さま家があって、そこに三日月、半月、満月などさまざまな形の違った月が一緒に住んでおり、毎日、『今日はあなたが空に昇る番よ』と皆で話し合っているのだそうです。

子どもの世界のほほえましい話は枚挙にいとまがありません。これは小学校の話ですが、算数の時間に、『四個のリンゴを三人の兄弟で分けると、ひとりは何だけもらえるでしょうか？』という先生の問いに、ある子どもが『一個』と答えて『×』をもらって帰りました。家で母親が子どもの答えの間違いについて詰問すると、『一個は仏様にお供えするのだ』と答えたというのです。

このような子どもの表現や思考は、やがて、常識や一般的な知識の中で消えてゆくでしょう。しかし創造性は、感覚的条件と知的条件が結合して発達してゆく子どもの人格にとって、また、学習の内容を決める上で、きわめて重要な問題となることを覚えなければなりません。

創造性は自己表現であり、その主軸となっているのは、直観力、想像力、思考力であります。変化に適応し、新しいものを創り出す力でもあり、科学や芸術が生まれる原動力ともなります。しかも創造性はすべての子どもに与えられており、教育によって開発できる人格の特性とも言えましょう。

創造性を育てるためには、固定観念を持たず、相手の可能性に絶えず飽くことのない関心を向けることが必要であります。

教育のわがが単に伝統を受け継ぎ、豊かな常識を身につけさせるためだけでないことを覚えるべきです。一人ひとりがその人にふさわしく生き、新しい時代を創るために、創造性を培うことの必要性を自覚することがたいせつであります。『伝統なき創造は盲目であり、創造なき伝統は空虚である』と言った哲学者の言葉に深い意味を感じます。」(輝くひとみをいつまでも 44～47 ページ)

子どもは創造力豊かで天才です。遊ぶことにしても、人を思いやることも大人顔負けの動きをします。子どもたちをどう育てていくか、どう才能を開花させるか、私たち大人の責任だと思います。輝く宝石もどのように削り磨くかによって輝きが違ってきます。幼児期が最も大事な時期です。今どのように子育てをするかによって子どもの将来が見えてきます。

皆様の子育てに神様の祝福がありますようお祈りいたします。

石川三育保育園 園長 富浜宗言